【おうち英語】わが家のおうち英語は先行逃げ切り型♪

今年娘は成人式を迎えました。
娘が生まれてからもう20年もの月日が経ったとは思えない感じです。
走馬灯のように蘇る記憶。。。
「そうか、もう20年も子育て、そしておうち英語も続けているのか～。」と思うと
感慨無量な気持ちになってしまいます。

今は娘も息子も高校生・大学生となり、
ほとんど手が掛からなくなってきましたが
子どもたちが小さい頃は無我夢中の毎日で
「早く大きくなってくれ～!!!」と切に願っていましたが、
実際に大きくなってしまうと現金なもので無性に寂しく思えてくるもの。。。

人間って勝手ですね(^^;

そんなこんなで子育てもなんだかひと段落してきたようなわが家ですが、
子育てだけでなくおうち英語の方もひと段落しているように思います。

子どもの身の回りのお世話が必要で毎日ドタバタしていたあの頃が
わが家のおうち英語のピークであって、
今は掛けている時間も情熱もあの頃には到底及びません。。。

そう思うと、わが家のおうち英語は完全な【先行逃げ切り型】なのかなと思います。
（実際に逃げ切れているかどうかは微妙な気がしますが・・・）

おうち英語の取り組み期間は長いものとなりますが、
私個人的には、その取り組みは全期間一定のペースが望ましいのではなく、
ある一定レベルに達するまでの期間は集中的に取り組む方が良いのではないかと思っています。

今日はそんなところをお話ししてみようかと思います(^^)

©2024 Englishbuds, MommyKayo

■目次

●言語における臨界期仮説
●おうち英語における臨界期は案外早い?!
●小学校以降スタートのおうち英語は無理なのか
●おうち英語のスタイルは様々

言語における臨界期仮説
言語習得、第二言語習得が語られるとき、
【臨界期仮説】という
「臨界期と呼ばれる年齢を過ぎると言語習得が不可能になる」との説が
持ち出されることがあります。

諸説ありますが、
最も有名な説はワイルダー・ペンフィールドとラーマー・ロバーツの
「多言語を学ぶのには9歳までのリミットがある」という説でしょうか。

脳科学的な検証から、
「第二言語の学習臨界期は13歳前後」という説もあります。

「9歳～13歳」と聞くと、
「おぉ!意外と大きくなってからでも大丈夫なんだ!」
と思われる方もいらっしゃるかもしれません。

臨界期仮説を見聞きするたびにいつも思うことは、
年齢だけが独り歩きしてしまっているのではないかということです。

「その年齢に語学学習を始めればギリギリセーフ!」という解釈がなされ、
その第二言語の学習法や環境は二の次というか、
ほとんど考慮されていないように思います。

英語ダメダメ学習者のこの私、
英語を学び始めたのは中1、12歳の時です。

臨界期仮説に立てば、
12歳というのはギリギリセーフな年齢で、
脳科学的には私の脳は第二言語を吸収する可塑性がまだあったはずです。

©2024 Englishbuds, MommyKayo

しかし現実には、四半世紀以上英語学習を何らかの形で続けているのに、
ネイティブの英語に近づくことはなく、
むしろ最近は加齢による物忘れも手伝って、
私の英語は酷くなる一方です。。。

そうして愚痴りながら臨界期仮説に思いっきりダメ出しみましたが、
私は年齢だけを取り上げて臨界期仮説にイチャモン付けているわけで、
仮説を提唱した学者の先生にしてみたら、
「そんなショッボイ学習法や環境面で英語ができるわけないやろがっ!よく考えやがれ!ボケ!」
と言いたくもなるでしょう。というか、たぶん相手にもしてもらえない・・・(^^;

臨界期仮説をよく読んでみると、
【アメリカに移住した人】が調査サンプルなんですよね、そもそも。。。

アメリカに渡ってきた年齢、
そしてその後の語学習得状況を調査した結果から導き出されてきた仮説を、
「滋賀の片田舎の日本人家庭、英語学習は中学校の英語の授業だけ」という
調査サンプルからかけ離れた一緒に論ずるには無理がある例に
年齢だけを強引に当てはめてみても、それは対象外なのは明らかです・・・。

日本で子どもへの英語教育が語られるとき、
環境などの要因を無視して臨界期仮説の年齢だけにスポットを当てて
「まだ大丈夫!」的な解釈がされる場合もありますが、
それは曲解なのではないかと私は思ってしまうのです。

13歳前後までに第二言語にドップリ一定期間触れる環境と適切な学習支援があれば、
脳科学の理論上、
その第二言語をネイティブ並みのレベルまで身に着けることは確かに可能なのでしょう。

ただやはり「年齢」と「環境」は言語習得を語る上で、
やはり両輪となるものだと思います。

どちらも条件を満たさなければならないのです。

©2024 Englishbuds, MommyKayo

おうち英語は、アメリカ移住の環境とまではいきませんが、
英語という言語を習得できる環境を人工的に作り上げるという点では、
臨界期仮説を満たしていると言えると思います。

●おうち英語における臨界期は案外早い?!
言語習得における臨界期仮説は9～13歳までというのは、
先に述べてきたところですが、
私が感じているところでは、
小学校に入ってからおうち英語を始めると乳幼児期から始めることに比べて、
残念ながら苦労が多かったり、英語を身に着けるところまでいかない
というケースが多いように思っています。

おうち英語のおける臨界期は
脳科学における言語習得臨界期よりも案外早いのではないかと
感じてしまうことも正直あります。

ここでお話しする「おうち英語における臨界期」というのは
子どもの脳の可塑性や可能性のことではなく、
主に環境面・子どもの精神的な発育具合から生じる
各種問題・障害的なものと言えます。

おうち英語は何か特別な秘儀があるわけではなく、
どんな教材・メソッドを使おうと、
「家庭内で一定時間子どもに英語を触れさせ続ける」
ということが最も大切なことになってくるのであって、
この部分を省くことは絶対にできません。

おうち英語はおうちに子どもが長く居てくれる時期が黄金期になります。
なぜなら毎日家で過ごす時間をたっぷりと英語に掛けることができるからです。
単純な話ですね。

しかし、日本社会で生きていくためには、
幼稚園・保育園・小学校という社会へと子どもを出していかねばなりません。

子どもが外に出れば、プリスクールやインターへ行かない限り、
日本の公教育は日本語で行われますから
英語の時間は著しく減ってしまうものです。

©2024 Englishbuds, MommyKayo

また園や学校で知り合う友達、得てくる情報も日本語が媒介手段となりますから、
子どもの中の日本語比率がグーンと高まってきてしまうのです。

私自身の臨界期仮説不適応説を持ち出すまでもありませんが、
言語習得というのは、環境・学習法などが非常に重要な要素となります。

日本で普通の社会生活を送る以上、子どもの成長に伴い、
おうちでの英語環境をずーっと同じペースで永続することなど不可能なわけです。

そう考えると、
子どもがある程度英語にドップリ触れられる環境を
集中的にある一定期間設けることが
言語習得に効果的なのではないかと思います。

わが家におけるおうち英語の黄金期は乳児期～小学校就学前で、
そのピークは3～6歳でした。

その時期にまとめて英語の時間を確保したことで、
子どもの中に英語という言語を育てることができ、
小学校入学以降は黄金期&ピークに獲得した英語力を
細々と維持向上させてきたというところです。

「英語という言語を育てる」とい表現はアバウトかと思いますので、
もう少し具体的にどの程度のレベルまで持っていったかを書いておきますと、
読みは「チャプターブックを読み始める」、
オンラインレッスンでは
「ごっこ遊びに英語で興じたり、日本語の絵本を即興で英語に直して読む」
ということをしていました。

その頃も英語力が日本語力を上回るということはなかったように思いますが、
その頃はなんとか日本語の発話内容と同じレベルが
英語でも話せていたように思います。

その後はわが家の偏重バイリンガル政策もあって、
子どもの日本語力と英語力の差は徐々に開いていくのですが、
それでもなんとか今日に至るまでおうち英語を続けてこられたのは、
幼児期に多少の負荷を掛けたおかげで
子どもの中に英語の土台が作れたことが大きかったと思っています。

©2024 Englishbuds, MommyKayo

日本では同じペースでコツコツと長く続けることが
勤勉で美徳とされるところがありますが、
おうち英語においては、子どもの発育過程、社会との関わり方などを見据え、
ある時期に集中的に英語時間を確保して
ピークを作ることも必要なのではないかと思うのです。

臨界期仮説を再び持ち出せば、
幼児期に英語に触れる時間を集中的に確保しなくとも、
小学校以降にその時間を確保しても
おうち英語により英語を身に着けていくことは理論上は可能なのですが、
小学校になると月～金は
朝7：30頃家を出て、16：30過ぎに家に帰るという生活リズムとなり、
そこに家庭学習（宿題）・友達との外遊びの時間が組み込まれていき、
物理的に時間が確保できなくなっていくのです。

言語を習得できるだけの時間を確保することが
非常に困難になってしまうのですよね。

時間だけでなく、
その他の要素も小学校以降のおうち英語を困難にするお話は
過去の note でもしてきましたのでよろしければご参照ください。

参考記事：
【おうち英語】継続の分岐点～小2の壁・中1の壁の越え方～
（番外編：中学受験との両立・・・）

●小学校以降スタートのおうち英語は無理なのか
「それでは小学校以降に
おうち英語という形で英語習得を目指すのは無理なのか」
と思われる方もいらっしゃるかと思いますが、
臨界期仮説を正しく解釈する限り、
理論上全く不可能な話でもないわけです。

環境さえ整えれば、
脳は第二言語を習得する素地が年齢的にまだあるということですから。

©2024 Englishbuds, MommyKayo

私が主宰しているオンライン英会話スクールに、
小学校以降に英語を始めた方でも
英語を自由に操る子に育ったお子さんが複数おられることからも、
事実として決して不可能ではないことは明らかです。

小学校以降におうち英語を始めた方のお話を伺うと、
「毎日の中に意図的に英語に集中的に触れる時間を設け」、
「インプット素材を吟味して適切なものを選び与える」ことに十分な配慮をされ、
環境面をしっかりと整えてこられたことが共通しており、
やはり適切な環境を作ることが必須だと思わされました。

語学習得に適した環境作りは
幼児期の方がラクなのではないかというのは私の私見に過ぎず、
理論的にも現実にも小学校以降も工夫次第で
十分に対応できるということなのかと思います。

そういう意味では、
臨界期仮説というのはまだしっかりと立証されていない
仮説の域を出ないものではありますが、
結構信憑性高い仮説なのではないかと思ってしまいます。

要は、臨界期の第二言語学習には
環境というファクターは間違いなく大きく、
そのファクターをどのように扱うかが言語習得の分かれ目とも言えるのではないか思います。

●おうち英語のスタイルは様々

おうち英語のスタイルは様々で、
家庭の数、子どもの数だけスタイルがあります。

英語に触れるという環境を作り出せる時期というのも
それぞれの家族の事情により異なるということかと思います。

フルタイムの共働きのため
乳幼児期にグッと濃縮したおうち英語の時間が持てないご家庭もあるでしょうし、
学童期に入ってからおうち英語のことを知った・・・というご家庭もあるかと思います。

©2024 Englishbuds, MommyKayo

わが家はわが家の事情で先行逃げ切り型となりましたが、
それが最善というわけでは決してなく、あくまで一つの例ということです。

私も最初から
「わが家のおうち英語は先行逃げ切り型で行くぞー!」
と決めていたわけではなく、
その時その時の状況に応じてその時のベストと思われる選択を重ねていったら
このスタイルでこの結果になったというだけです。

理由は全部後付けですね(^^;

ただ振り返ってみると、
わが家のような飽きっぽい一族は
先行逃げ切り型で良かったなぁと思っているのも偽らざるところであり、
一つのパターンとしてご紹介しておこうと思った次第です。

こんな例もあるのだなと思っていただければ♪

©2024 Englishbuds, MommyKayo